

教育方針		6年間の学校生活の中で個性を伸ばす		重点目標	新しい教育への挑戦—個性を伸ばすための教育課程の研究—	
領域	評価項目	具体的目標		評価	目標の達成状況	次年度の改善策
確かな学力を育てる教育の推進	学習習慣の確立と基礎学力の定着	クラウドサービスを活用して自学自習の習慣化を図るといったICTの長所を生かした工夫等により、基礎期(1・2年)90分以上、充実期(3・4年)120分以上、発展期(5・6年)180分以上の学習時間確保者60%以上を目指します。 A: 60%以上 B: 59%~55% C: 54%~50% D: 49%~45% E: 45%未満		C	学習時間確保のため、今年度もスタディサプリを取り入れてみた。利用方法が徹底していなかったためなのか、あまり学習時間の確保ができていなかった。動画の内容は非常に良い。	後期生3学年でのClassiの学習トレーニングとスタディサプリの動画の活用方法をそれぞれ生徒に意識させる。教員の活用方法の講習会を開き、生徒が十分利用できるようにしていきたい。
		分かる授業を心掛け、週末課題を工夫することにより、全国学力・学習状況調査(3年生)での正答率70%以上を目指します。 A: 70%以上 B: 69%~65% C: 64%~60% D: 59%~50% E: 50%未満		D	正答率は国語が53%、数学が47%で、県平均と比較すると、国語がマイナス3%、数学がマイナス5%となっている。昨年度は国語がマイナス1%、数学が+1%だったので、改善の必要がある。	設問別に細かく分析し、生徒の習熟度に合わせた授業内容と課題の分量や内容をさらに検討していく。個々の生徒の理解度を把握して、個別指導の充実を図る。
	進路指導の充実と進路目標の実現	過去の進路情報を十分に活用し、進学、就職ともに進路実現率100%を目指します。 A: 100% B: 99%~97% C: 96%~95% D: 94%~93% E: 93%未満		A	後期生、各学年のTeamsに、来校した大学・短大・専門学校をPDF化し、週1回以上掲載するようにした。年内進路決定者は、84.8%と昨年度よりさらに多くなった。	各学年のTeamsに、来校した大学・短大・専門学校、また企業の情報をPDF化し、週1回以上掲載することを継続する。生徒の利用頻度を上げ、進路実現に生かしたい。
早期から個別指導を充実させ、国公立大学合格者数25名以上を目指します。 A: 25人以上 B: 24人~20人 C: 19人~15人 D: 14人~10人 E: 9人以下		D	総合・推薦を希望する生徒への個別指導は、部活動との調整が必要で、早期から始めたが、時間の確保が十分できなかった。国公立大学合格者10名と、昨年より減少した。※3月7日現在	前期3年生に学力テストを実施し、進級前の中学校内容の定着を図ると共に各学年の学力中間層を意識した対策を行い、最後まで国公立大学を狙わせたい。		
朝読書を有効に活用し、図書の出借冊数を増やし、年間読書冊数、一人平均10冊以上を目指します。 A: 10冊以上 B: 9冊~8冊 C: 7冊~6冊 D: 5冊~4冊 E: 3冊以下		A	一人当たりの読書冊数は10.9冊で昨年より3冊程度減少しているが目標は達成している。図書館の出借冊数は1.38冊で、前期生の貸し出し数が後期生の約3倍である。	前期生は貸出冊数が多いので後期生になっても読書をする姿勢を失わないようにしてほしい。後期生になると読書する時間がなかなか取れない現状がある。		
豊かな人間性を育む教育の推進	部活動の充実と豊かな心の育成	県高文祭に出場する生徒45名以上を目指します。 A: 45人以上 B: 44人~40人 C: 39人~35人 D: 34人~30人 E: 29人以下		A	県高文祭にエントリーした生徒数は、49人と目標を上回った。受賞する生徒・団体が出てくるよう、活動を充実させる手だてを考えたい。	県高文祭と、本校の修学旅行や期末考査の時期が重なっていることに対して、実施時期の変更を含め、活動がしやすい環境を作りたい。
		四国選手権に出場する生徒後期課程7部門以上、県総体に出場する生徒前期課程5部門以上を目指します。 A: 後期7部門以上 前期5部門以上 B: 前後期合計 目標-2部門まで C: 前後期合計 目標-4部門まで D: 前後期合計 目標-6部門まで E: 前後期合計 目標-7部門以下		A	前期四国(ハンドボール・サッカー・軟式野球)後期四国(ハンドボール、なぎなた団体、演技、個人・アーチェリー男女団体、男女個人・水泳・少林寺・女子ソフトテニスダブルス)前期県総体7部門	中等教育学校の特性を生かして、今後もより上位の大会を目指したい。特に前期のサッカーが全国大会に出場できるよう、その力を育成していきたい。部活動の充実には豊かな心の育成につながるから、前年度の成績を上回ることができるよう取り組んでまいりたい。
育性豊かな進歩人間	部活動の充実と豊かな心の育成	全国大会に出場する生徒、前期課程3部門以上、後期課程5部門以上を目指します。 A: 前期3部門以上 後期5部門以上 B: 前後期合計 目標-1部門まで C: 前後期合計 目標-2部門まで D: 前後期合計 目標-3部門まで E: 前後期合計 目標-4部門以下		A	前期全国(ハンドボール・なぎなた・アーチェリー)後期全国(ハンドボール・なぎなた団体、演技、個人・水泳・アーチェリー一男子団体、男女個人)	四国大会・全国大会へ出場する部が固定化されているが、他の部活動も結果が出てきつつあるので、多くの部門で出場するだけでなく上位を狙える力を付けていきたい。
豊かな人間性を育む教育の推進	特別活動の充実と連帯感・自己有用感の育成	運動会・青藍祭(文化祭)など、学校行事に積極的に参加し、楽しめる生徒100%を目指します。 A: 100% B: 99%~90% C: 89%~80% D: 79%~75% E: 75%未満		A	生徒対象の学校評価アンケートの結果では、前期生は運動会99%、文化祭98%、後期生は、両方92%の結果であった。	例年、後期生に比べ前期生の方が評価の結果が高くなっている。学校行事の主体となる後期生の取組をアンケート結果を通じて見直していきたい。
	基本的生活習慣の確立	自身による健康管理とともに、学校生活への目的意識の向上を図り、年間30日以上欠席の長期欠席者の改善を目指す。また、生活習慣の乱れによる遅刻などをなくしていきます。		D	インフルエンザやマイコプラズマ肺炎などの感染症に加え、咳を伴う風邪症状が1年を通して流行し続けた。皆勤率は昨年度並みに低い結果となる見込み。※まだ年度末の集計処理が出ていないため、2学期末段階での昨年度との比較	各クラス、学年において、バランスの良い食事、睡眠時間の確保など、基本的な生活習慣を確立させ、感染症や風邪等に対する抵抗力をつけさせる。また、新型コロナもまだ完全には収束していないので、感染症対策にも力を入れる。
	望ましい集団作りの推進	いじめの早期発見・早期解決を図り、いじめ問題未解決ゼロを目指す。		C	アンケートから1、2学期に24件のいじめ事案が認知された。担任、学年主任などの早期対応により解決しているものが大半である。被害者・加害者の主張が食い違っていることについては、管理職の指導の下、保護者や本人に寄り添った対応を行い、解決に向けて対応を進めている。	いじめの早期発見・早期対応及び組織的対応を次年度も行っていく。そのために、学習活動のみならず、学校全体の教育活動において、日々の生徒観察を行い、声を上げにくい生徒等への声掛けも積極的にを行い、誰もが安心して楽しく学校生活が送れるように努めていきたいと考えている。
グローバル社会で輝ける人間育成の推進	地域貢献できる人材の育成	各種英語検定に積極的に取り組ませ、実用英語検定合格者数、前期課程では3級30名以上、後期課程では2級20名以上を目指す。 A: 前期30名以上 後期20名以上 B: 前後期合計 目標-5名まで C: 前後期合計 目標-15名まで D: 前後期合計 目標-20名まで E: 前後期合計 目標-21名以下		E	実用英語技能検定において、前期課程では3級16名、準2級5名が合格した。後期課程では2級に4名が合格した。	受験者数は、昨年度161名、今年度117名と、44名減った。受験料高騰のために受験に慎重になっていること、また、検定に対する意欲や関心が下がっていることが考えられる。今後は、進路実現に向けて資格取得が大切であるとともに、基礎学力の定着を図るためにも検定に向けた学習が必要であることを生徒に訴え、英検取得者の増加を図ってきたい。
	地域貢献できる人材の育成	漢字検定に積極的に取り組ませ、漢字検定合格者数を前期課程では3級で受験者の80%以上、後期課程では2級で受験者の80%以上を目指す。 A: 前期80%以上 後期80%以上 B: 前後期平均 目標-5%まで C: 前後期平均 目標-10%まで D: 前後期平均 目標-15%まで E: 前後期平均 目標-15%未満		E	3級を受験した生徒(前期課程)の合格率は、60%、2級を受験した生徒(後期課程)の合格率は35%だった。しかし、第2、3回の合格率が格段に上がっており、対策等をしっかりとった成果が現れた。	後期課程の2級合格率が低い。上位級受験者に対する支援をしっかりと行っていきたい。また、日常の漢字テストで高得点を維持している生徒も多いので、そのような生徒に漢字検定を勧めるなど受験者を増やす取組も行いたい。
業務改善	適切な勤務時間の奨励	国際理解セミナー、スピーチコンテスト、英語セミナーなどの英語イベントに参加した生徒の満足度100%を目指す。 A: 100% B: 99%~90% C: 89%~80% D: 79%~75% E: 75%未満		B	英語セミナー参加者18名のうち17名の生徒が満足したと答え、国際理解セミナーでは30名全員が満足と答えている。スピーチコンテスト参加者は全てよい経験をし、参加して良かったと答えている。	参加して楽しかった、もっと英語を勉強したい、話せるようになりたいという意見が多かった。今後もこれらの行事が、生徒の英語学習に対するモチベーションを高めるものになるよう、工夫を重ねていきたい。
	職場環境の整備	行事・会議等の精選、業務の効率化、過重労働の防止など、働き方改革を進めます。		B	教職員対象の学校評価で、働き方改革に関する取組の項目で前年度より10%以上評価が高かった。	働き方改革=時短と捉えるのではなく、教員の教育活動に関わるモチベーションをより高められるように、教職員との対話を進めながら、働き方改革をすすめていきたい。
		衛生委員会や健康相談、管理職面談等を通じ、教職員の疲労や心理的負担を把握し、軽減を図ります。		B	管理職面談を増やし、教職員厚生室との連携等を推進した。また、衛生委員会において、情報共有が有効活用できている。	日頃から、話しやすく、相談しやすい環境づくりを促進していきたい。また、報連相の徹底を図り、迅速に働きかけができる体制を整えていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。